



2019年12月期
決算説明資料

内外トランスライン株式会社



1. 決算概要
2. 今期計画
3. 中期経営計画
4. 株主還元について



1. 決算概要

連結損益計算書

- ・ 内外釜山物流センター（以下NBL）の子会社化など新規事業に挑むも世界的な貿易量縮小の影響を受け、売上高は4.2億円減の228億円
- ・ 売単価の改定で売上総利益は増加するが、その他段階利益は前連結会計年度を下回る

連結貸借対照表

- ・ 現金及び預金の増加5.7億円等により流動資産は84.9億円
- ・ NBLの取得に伴う建物及び構築物の増加5.5億円、使用権資産の増加2.6億円等により、固定資産は36.4億円
- ・ 総資産は11.7億円増加の121億円
- ・ 純資産は8.7億円増加の94億円

連結キャッシュ・フロー計算書

- ・ 利益計上を中心に営業C/F +16億円
- ・ NBLの株式取得等により投資C/F △3億円
- ・ 配当金の支払い△3.3億円
- ・ 現金及び現金同等物は期首より5.7億円増加し、63億円

(百万円)

	2018	2019	対前年 増減率	2019 期初計画
売上高	23,254	22,830	-1.8%	24,500
営業利益	1,616	1,528	-5.5%	1,750
経常利益	1,656	1,594	-3.8%	1,790
親会社株主帰属 当期純利益	1,146	1,091	-4.8%	1,220
為替レート(USD/円)	110.45	109.03	-1.42円	(2019年予算レート) 110.00

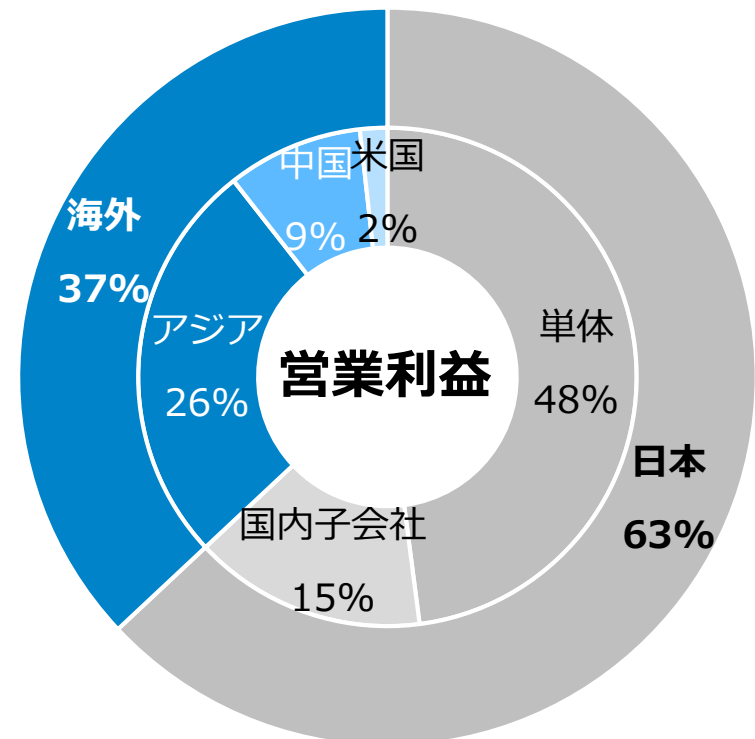
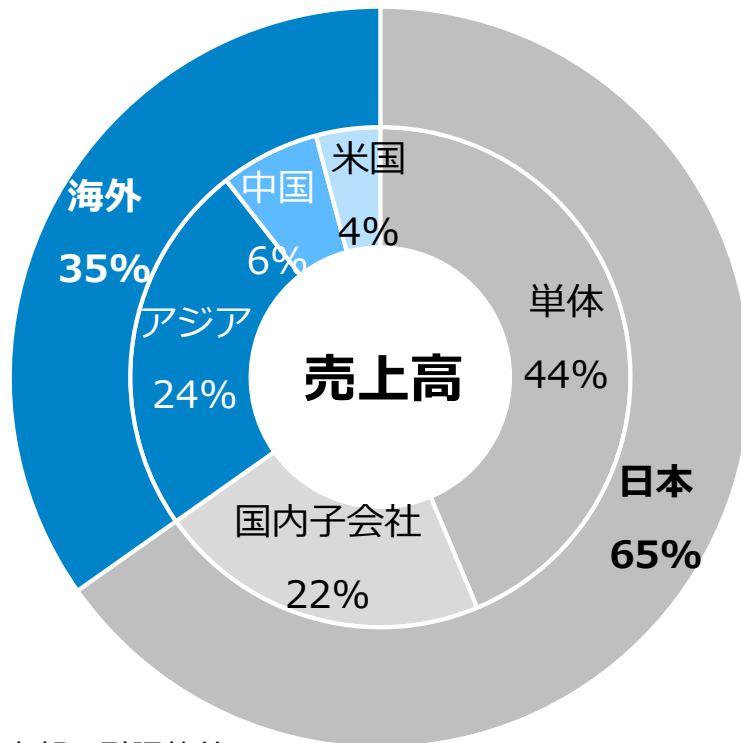


セグメント別売上高・営業利益

(百万円)

	2018	2019	対前年増減率	増減額
売上高	23,254	22,830	-1.8%	-424
日本	15,630	15,289	-2.2%	-340
海外	7,624	7,540	-1.1%	-83
営業利益 (調整額)	1,616	1,528	-5.5%	-88
	(-25)	(-65)	(一)	(-39)
日本	1,035	1,002	-3.2%	-32
海外	606	590	-2.6%	-15

2019

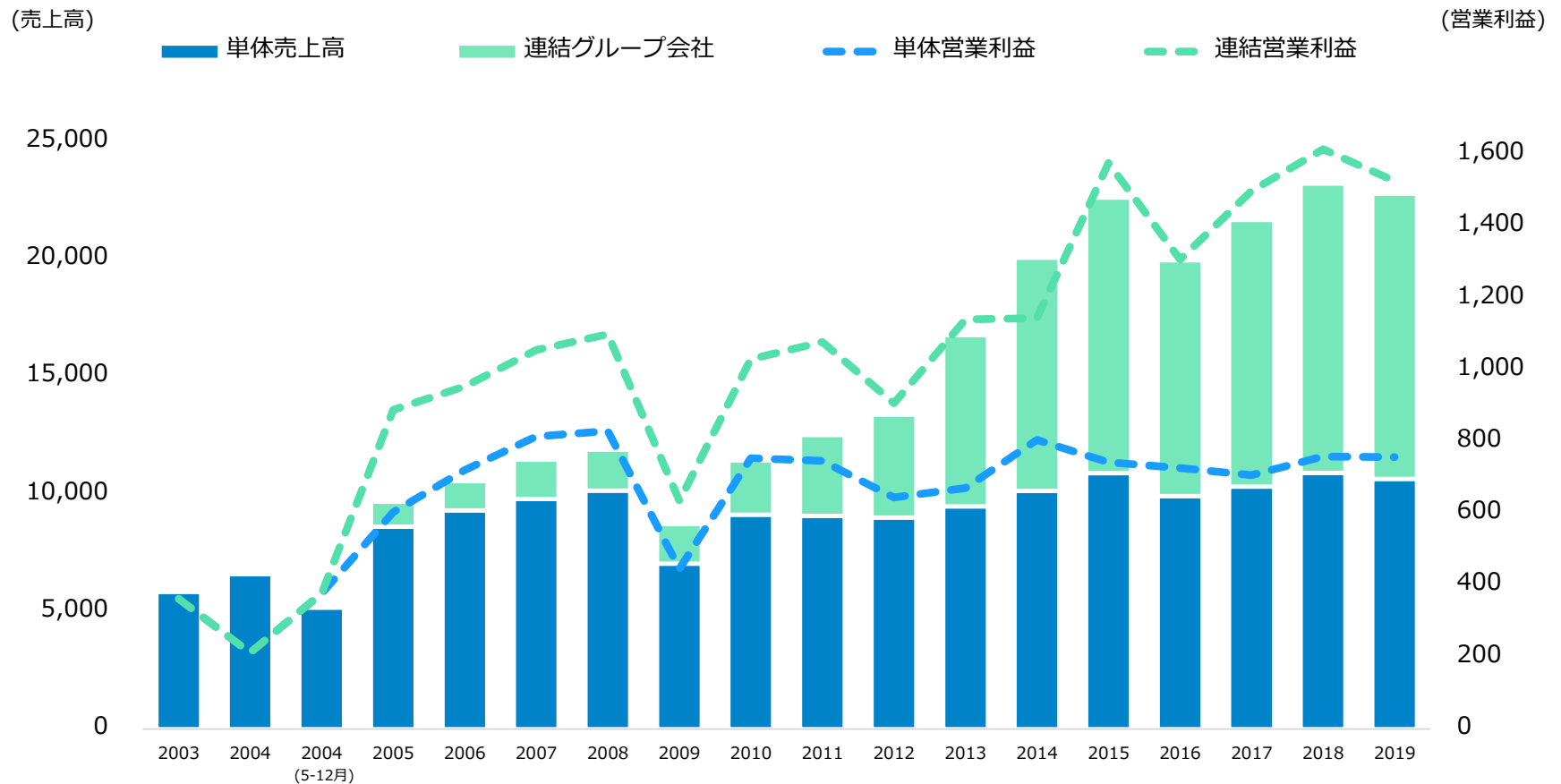


*内部取引調整前

海外倉庫事業が業績に貢献



連結売上高と営業利益の推移

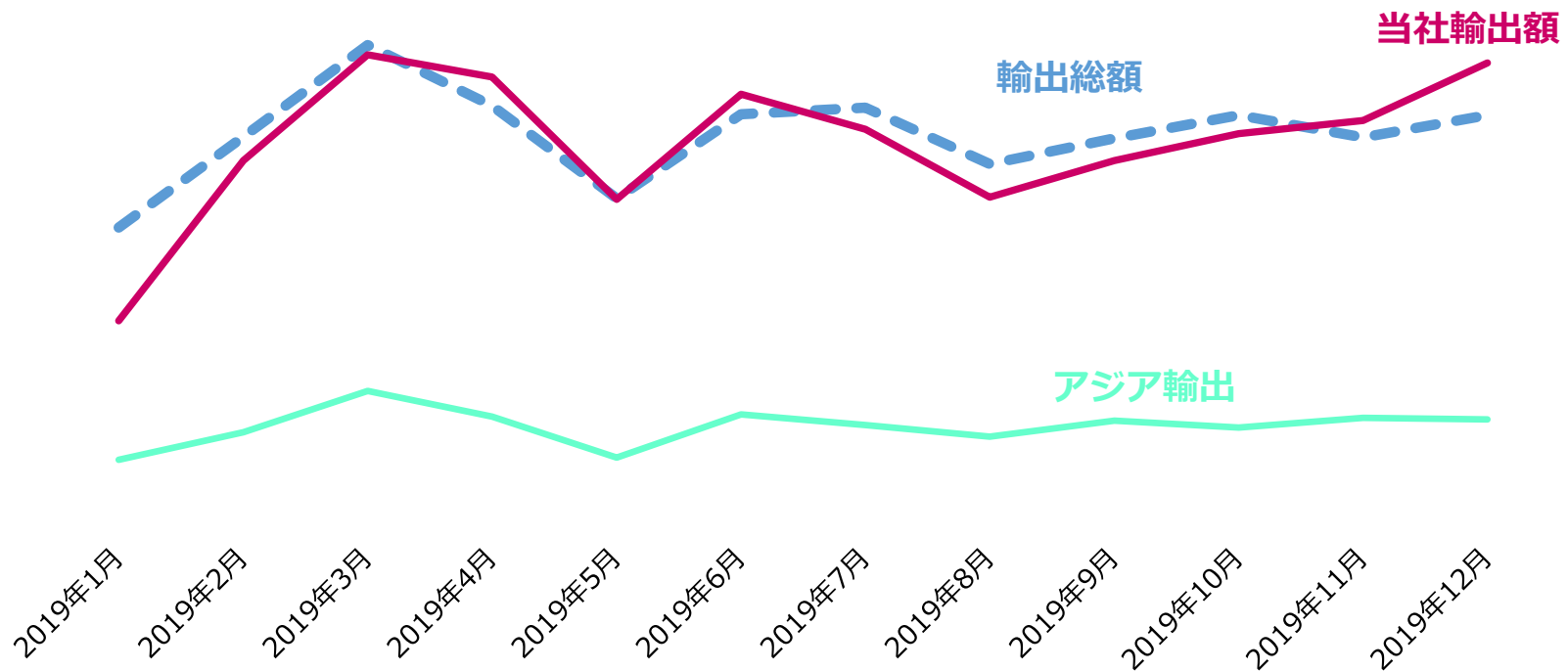


* 2004年に決算期を4月から12月に変更(2004年5月~12月:8ヶ月決算)

単位：百万円



当社輸出額と輸出貿易統計額の推移



出典：財務省貿易統計を基に当社作成

輸出貿易統計額（全体・アジア）と当社輸出売上額を月別にグラフ化したもの



連結貸借対照表の概要(前期末比)

(百万円)

<主な変動要因>

流動資産

- ・現金及び預金 +575
- ・売掛金 △144

固定資産

- ・建物及び構築物 +559
- ・※使用権資産 +262

総資産 12,145 (+ 1,177)

流動資産
8,497
(+476)

固定資産
3,648
(+701)

流動負債
1,986
(+75)

固定負債
674
(+223)

純資産
9,484
(+878)

自己資本比率 72.1%

<主な変動要因>

流動負債

- ・※リース債務 +108

固定負債

- ・※リース債務 +157

純資産

- ・利益剰余金 +751
- ・為替換算調整勘定 △110
- ・非支配株主持分 +223

() 内は前期末比増減

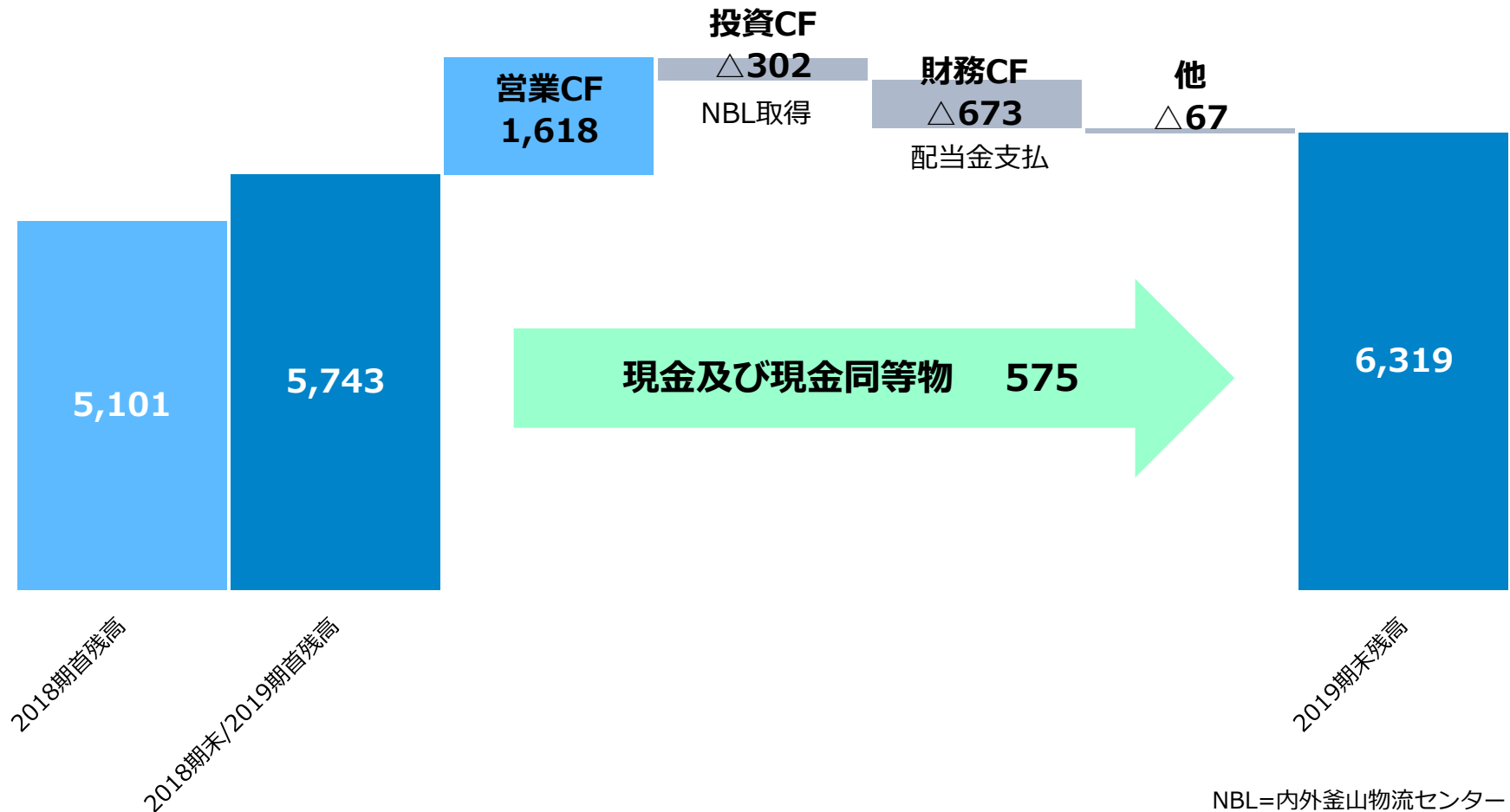
※海外連結子会社において会計基準の変更により、新たに計上したもの



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

2019

(百万円)

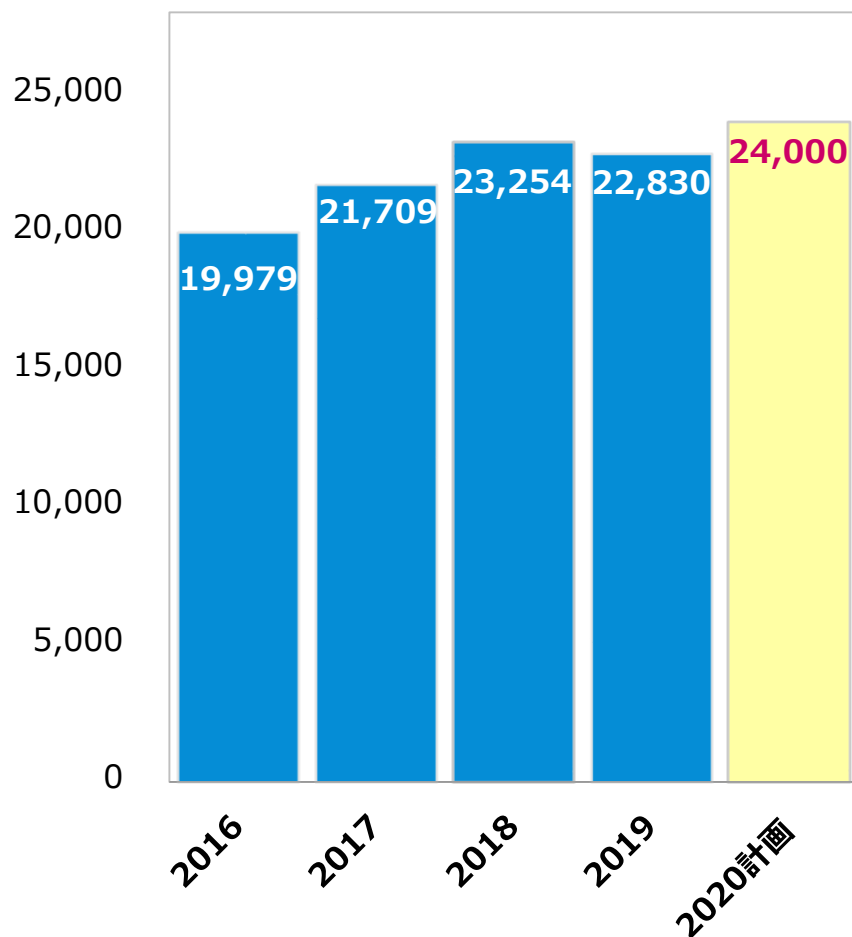




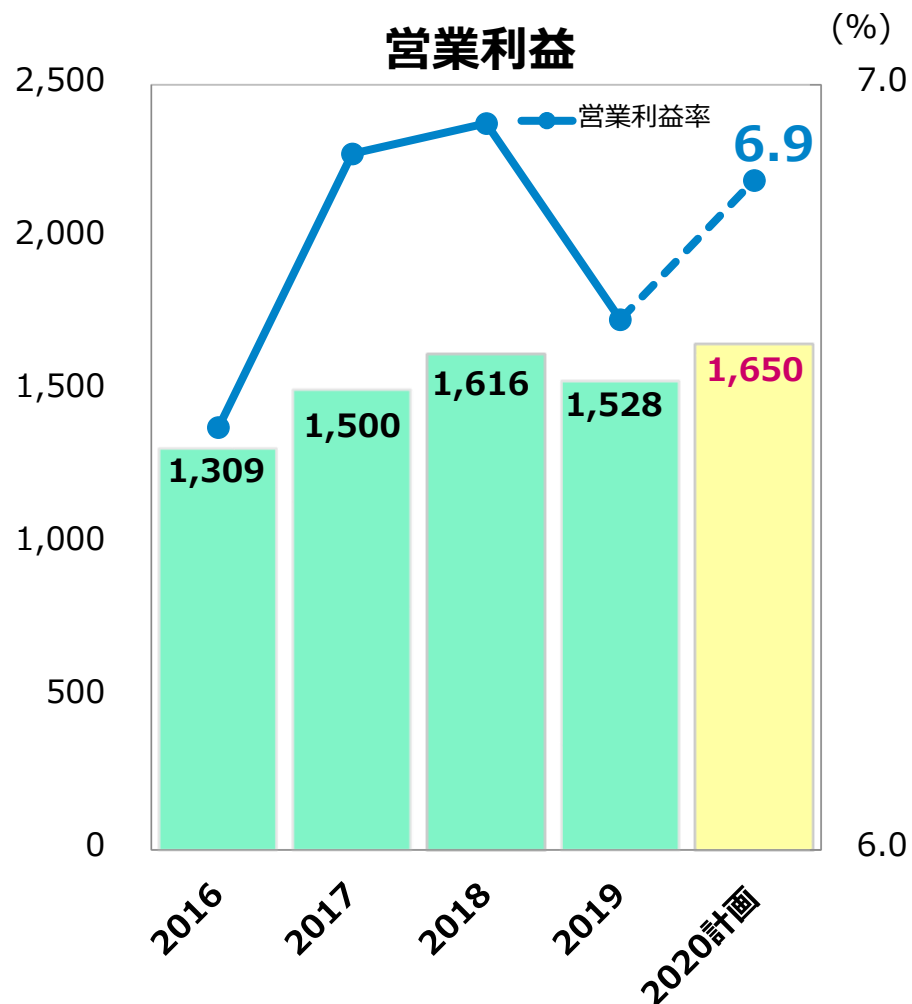
2. 今期計画

(百万円)

売上高



営業利益





3. 第4次中期経営計画(2020~2022)

中期経営計画の振り返り

第1次 中期経営計画	第2次 中期経営計画	第3次 中期経営計画
2011	2014	2017
2019		
輸出混載を基軸に フォワーディング サービスを充実 ・インド現地法人 子会社化 ・(株)ユーシーアイエア フレイトジャパン 子会社化 ・フライング フィッシュ(株)設立 ・航空事業部開設	国際フレイト フォワーダー 事業の確立 ・東証第一部銘柄指定 (2015年3月) ・中国の深圳に 現地法人設立 ・内外銀山ロジスティ クス(株)の釜山倉庫が 営業開始	国際フレイトフォワーダー としての成長 ・ミャンマーに現地法人設立 ・AEO通関業者認定 ・“日本の食品”輸出EXPOに初年度より出展 ・航空貨物を含めたフォワーディング案件 増加 ・インド倉庫拡張 ・内外釜山物流センター(株)子会社化 ・海外での倉庫事業の拡大 ・国内グループ会社の躍進 ・欧州からの輸入食品の取扱い増加



第4次中期経営計画重要経営指標(KPI)

売上高

2022年に300億円達成

営業利益率

7.0%

ROE

14.0%

国 内

- ・ 混載事業の業務効率化
- ・ フォワーディング事業への積極的投資
- ・ 国内事業への展開

人 材

- ・ 働き方改革に応じた人事制度の改定
- ・ 能力開発の徹底
- ・ 経営の現地化の促進

**安定的収益確保の実現
継続的成長の実現
企業価値の向上**

海 外

- ・ 5つのブロックに分け地域性・優位性を活かした営業展開
- ・ 新規代理店の開拓

投 資

- ・ M&A及び、資本提携、業務提携
- ・ IT/DIGITAL化
- ・ 人材及び教育研修投資

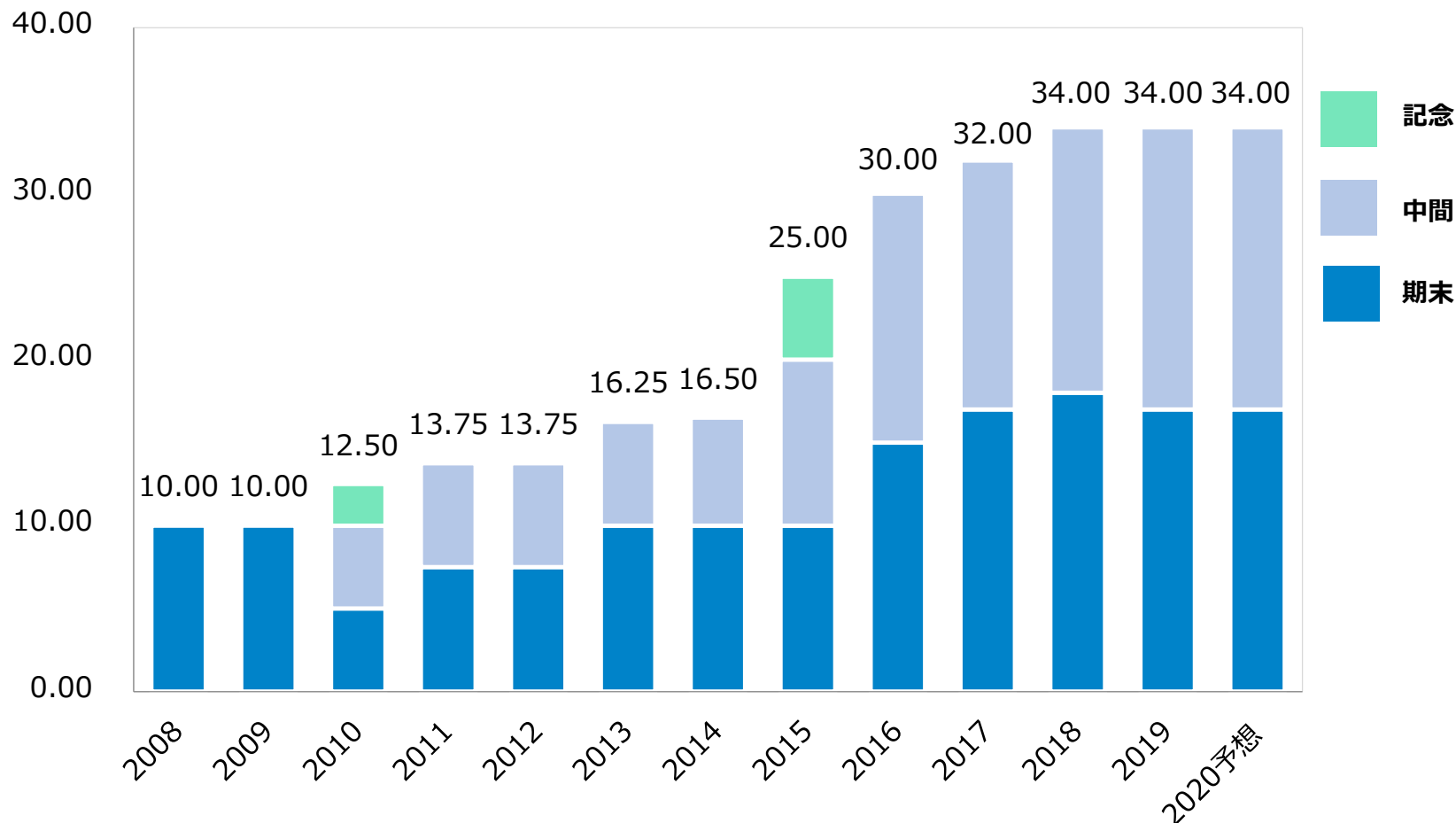
当社グループの取組みとしてグローバルでのSDGsの実現に向けた活動を推進し、地域、社会との関連性を意識した持続可能な社会貢献に注力してまいります



4. 株主還元について

配当金の実績と予想

(配当金/円)

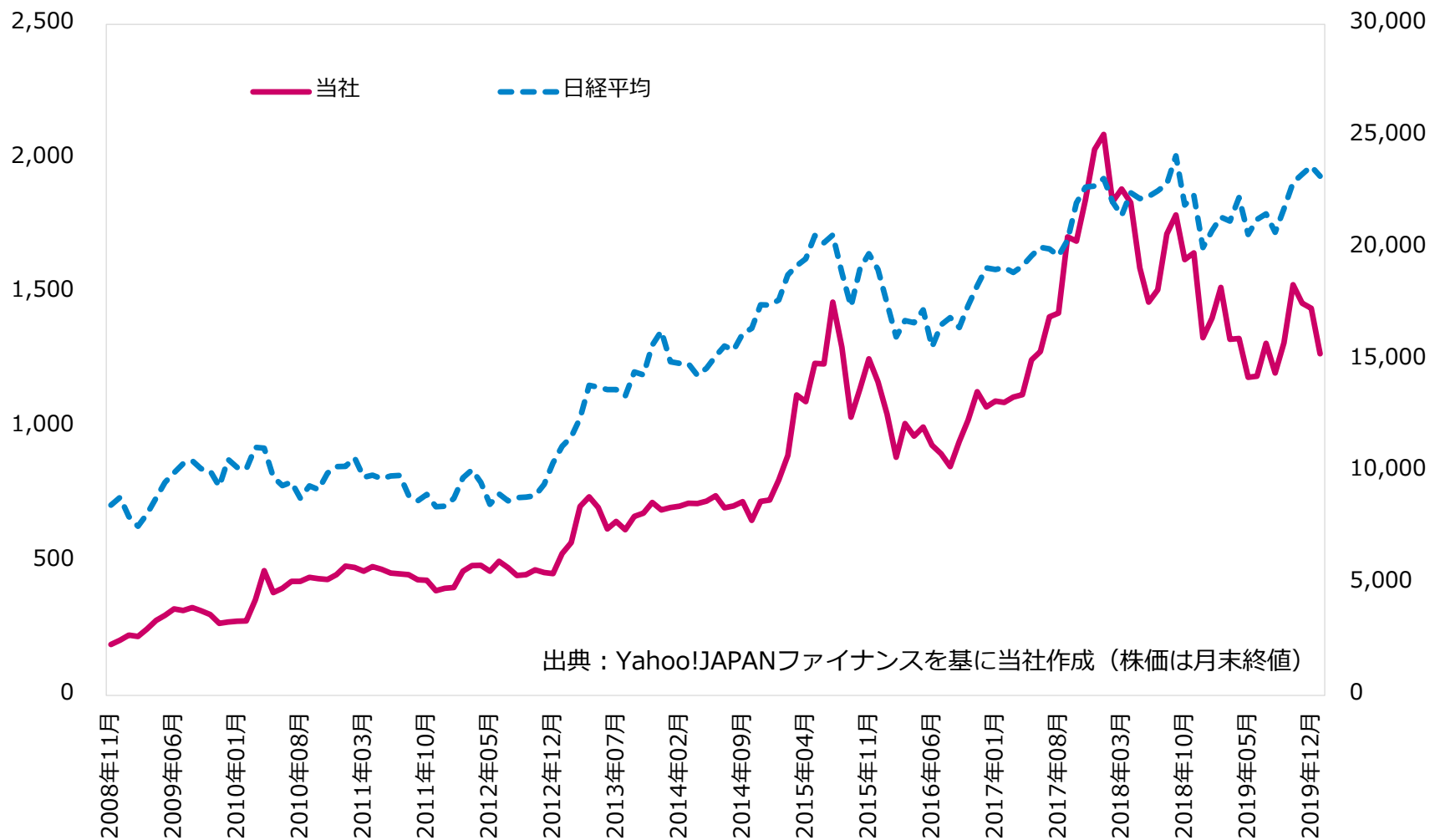


※2012年と2015年6月末日を基準日としてそれぞれ1：2の株式分割を実施、上記金額は分割後配当額にて表示

当社株価の推移

(当社/円)

(日経平均/円)



ご清聴ありがとうございました



内外トランスライン株式会社
NAIGAI TRANS LINES

お問合せ先
取締役 IR担当 田中 俊光

TEL 06-6260-4800

FAX 06-6260-4713

URL <http://www.ntl-naigai.co.jp>

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは既に具体化している事実を除き、本資料の作成時点で取得可能な情報に基づくものであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の業績などは本資料に記載の見通しや予想とは異なる結果となる可能性があり、その内容を保証するものではありません。

